

中国の蘇州職業大視察旅行報告

職業能力開発分科会 *1
中国職業大視察団

1. はじめに

中国ということでは、1992年からはじまる「中国労働部職業訓練指導員養成センター」プロジェクトがあり、職業大、東京校が5ヶ年間技術協力にあたったとの記憶をお持ちのかたもいるでしょう。私自身は、この計画を締結するミッションに参加させていただいた。それから、最近のことであるが、2010年上海万博の様子を伝えるテレビにより、めざましい発展を続ける中国を見て上海を一度訪問したいと思っていた。一方、石丸先生等は、中国の職業大を調べていた⁽¹⁾。そこで、中国の職業大を見に行こうと呼びかけを能力開発分科会で行った。賛助会員の1社が同行したいとの賛同を得たが時の情勢変化もあり直ぐには実現しなかった。今回、1月に再度募集をしたところ、賛助会員含め10名の賛同者を得て、上海・蘇州視察旅行を実施に移すことができた。

そこで、体験したことや中国の職業教育および、中国の様子的一端をここで紹介できれば幸いである。

2. 中国の指標と教育事情

① 「世界の工場」と呼ばれる中国

表1 各国の人口とGDP				
2010年	中国	日本	インド	U S A
年次推計人口 (100万人)	1,341.3	128.1	1,224.6	310.4
国内総生産 GDP10億米ドル	5,739.4	5,503.5	1,722.3	14,447.1
総務省統計局 HP 諸外国の主要指標より抜粋				

中国は、世界最大の人口を擁する国家、世界第2位の経済大国である。経済の改革開放が進み、「世界の工場」と呼ばれるほど急成長している。この要因は、安い人件費と膨大な労働力にあると単純に考えられがちだが、経済的急成長の背景には、中国における国策としての職業教育がある⁽²⁾と言われている。この状況を、まずは見に行こうというのが、今回の視察旅行である。

② 中国の教育制度

中国の教育制度は、初等教育6年、中等教育（前期3年、後期2年～4年）、高等教育（2年～5年）となっている。後期中等教育は、高級中学の他に職業中学、中等専門学校、技術労働者学校がある。日本の普通高校にあ

たと思われる高級中学の生徒数は、2434万人である。職業中学 778万人、中等専門学校 840万人、技術労働者学校 415万人 であり⁽³⁾、これら3校をあわせて中等職業教育と呼ぶ。

一方、高等教育は大学（4～5年）、専科学校（2～3年）、職業技術学院（2～3年）、大学院レベルがある。大学が1090施設、専科学校144施設、職業技術学院1071施設がある。専科学校と職業技術学院をあわせて、高等職業教育と呼ばれる⁽³⁾。

現在、就学率でいえば全国の小学校の入学率は99%以上、中学と高校の入学率は97%と59%、高等専門学校や大学の入学率は22%に達しており、9年制義務教育は95%以上となっている⁽⁴⁾。

③ 職業教育重視の中国国家戦略

中国政府は1980年代以降、一層の経済成長を目指して、高度な実用型技術人材の育成の重要性を強く意識し、職業教育重視の政策を取ってきた⁽⁵⁾。

1985年5月、全国教育会議で「中等教育システムを調整し、力を入れて職業教育を発展する」と決議し、1991年10月、国務院は「力を入れて職業教育を発展する決議案」を公布する⁽⁶⁾。また、国務院は2004年と2005年に連続して全国職業教育会議と全国人材会議を開き、各種法律や法規をつくり、広範な世論を通して積極的に職業教育の発展方向を主導した⁽⁷⁾。

この結果、1980年の中等職業教育の比率は全体の26.1%、1990年には50.84%になり、1994年には58.3%そして1999年には49.16%規模となっている⁽⁸⁾。

高等職業教育は1950年代の高等専科学校に端を発し、1980年代の職業大学と1990年代の職業技術学院から発展してきた⁽⁹⁾。一部の経済発展地区やハイテク企業では職業教育の重点が高度な技能を有する人材の養成に向かい高等職業教育が発展した⁽¹⁰⁾と言われる。また、高等職業教育が高等教育の半分を占めるに至って、中国が高等教育の大衆化段階に入ら

中で重要な役割を果たしたと言える⁽¹¹⁾だろう。

この高等職業教育の職業技術学院を見学した⁽¹²⁾。

表2 旅行日程	
4/24(火)	出発 上海から蘇州に移動
4/25(水)	蘇州工業職業技術院 蘇州工芸美術職業技術院
4/26(木)	留園・寒山寺 蘇州博物館
4/27(金)	上海博物館 新天地・外灘
4/28(土)	帰国

*1 文責 職業能力開発総合大学校東京校嘱託 山見



写真1 蘇州に向かう 道路のまわりに高層ビル

3. 蘇州に向かう

4泊5日の日程は、もっと沢山の学校と交流しようと計画されたのですが、結果的に表2のようになった。

日本の茨城空港を午後1時過ぎに出発し、上海浦東空港につき、迎えのマイクロバスに乗り込む。夕暮れ時である。一路、蘇州に向かって、ひた走る。空港もなんと大きいなと思ったが、バスの窓から見える景色は、なんと林立した高層ビルの群れである。人口も多いとこんな風になるかと妙に感心した。広々とした景色の中に、あちらこちらとビル群が見えては迫ってくるのである。また、町に近づいたのか、企業の看板がちらつく。日本の企業のものがある。ガイドが、蘇州には外資系企業が進出していて、その数、300とか400あり、7割が日本、2割が西欧系1割が韓国という。常時滞在している日本人の家族も多く、日本人学校はもちろん、日本人が集う飲食店の街もあるという。これは、蘇州だけでなく、さらに奥の無錫まですすんでいるという話だ。日本から雇用が無くなるのも頷ける。

蘇州には2泊したが、夜、食事の後、街を散歩したが東洋のベニスと呼ばれる運河の街、小舟も電灯で飾り、沢山のお土産店や飲食店など、かなり遅いと思われる時間、それもウィークデーにかかわらず人出が多く、まるでお祭り騒ぎである。賑やかな街波、日本で見かける同じコンビニがあり、同じ商品も並んでいる。

蘇州の観光では、高速鉄道の開通にともない新駅舎開業、巨大ステーションとなりつつある蘇州駅、禪宗寺院の寒山寺で鐘をつき、清代の建築造園様式を今に伝える名園「留園」を訪問した。



写真2 蘇州 運河の街の夜景



写真3 巨大ステーション 蘇州駅

4. 蘇州職業技術学院見学

① 蘇州工業職業技術学院

学園らしき中にバスが進んだ。これは、学園だという感じで、車道にごみは落ちていない。庭木は手入れされている。膨大な敷地の中に、大学、職業技術学院等が集められているようだ⁽¹³⁾。本館らしきところに、バスが



写真4 蘇州工業職業技術学院



写真5 技術学院の会議室にて

止まった。建物に向かうが、場所が違らしい。警備員が飛んできて、ここではなく、別の建物ですでに準備していて我々の到着を待っているという。バスでまた移動。会議室に入ると、正面の壁に「熱烈歓迎日本実践教育訓練研究協会」と映し出されていた。感激である。

互いの自己紹介の後、学院の概要について説明を受けた。

学院は、1946 年の高等専科学校からはじまり、2005 年江蘇省人民政府の職業技術学院となる。構成は、メカトロ技術部、電子技術部、情報技術部、管理部、公共教育学部、成人教育部の6 部からなり、数値制御、機電一体、応用電子、コンピューター、物流管理など30 以上のコースがある。また大学3 年制である。全日制の学生は8000 人、定時制の学生が1200 人在籍している。先生の数が470 名とのことであった。説明の後、機械とメカトロニクスの実習場を見学させていただいた。



写真6 機械科実習室 マシニングセンター

最初に通された実習場は、マシニングセンターのフロアであった。コントローラーは、ファナックであったが機械がどうも中国製らしい。ふと気がつくと、マシニングが1 台、2 台とあるのではない、10 数台いやそれ以上フロア一杯にマシニングセンターが並べてある。次の部屋は、NC 旋盤の部屋である。これもフロア一杯に機械が揃っている。「汎用工作機械はどうしてるのか」との質問に、隣のフロアに、フライス盤があり、次のフロアに旋盤があり、女性の指導員も加わって、加工実習が展開中であった。廊下を挟んだ反対側には、メカトロニクスの実習室があり、日本の能開大などと、



写真7 機械科実習場 フライス盤 加工実習

お馴染みの光景で、PC や、フェストの製品とか、また FA ラインを組んだと思われる残骸が散らばっていた。いや、数量も桁違いだと驚いた。

学院の2008 年卒業生2129 名就職率98.73%、2009 年卒業生2444 名就職率99.18%と配布されたパンフレットに書いてあった。

② 蘇州工芸美術職業技術学院

昼食を終えて、ふたたび学園の中に戻った。

学院の先生に迎えられ、建物の2 階へ、学生が実習をしているデザイン室、CAD 室、試作室などを見て廻る。途中、会議室に横断幕が掲げてあり、歓迎日本広島国立大学訪中交流と読める。これはと、日付を見ると本日である。実は、これは、私等のことであった。ガイド役が、石丸先生の古い名刺を先方に渡したらしい。会議室に通されると学生たちも遠巻きにして入って来た。各セッションの長と思われる先生が説明にあたった。彼らは国際交流は大歓迎で、中国学生の受入れはどうなのかの質問があったように思うが、自分たちの教え方等の丁寧な説明があった。デザイン技術を中心に、室内デザイン、工業製品デザイン、服飾デザインなど5 つの専門がある。1 年目に基礎で、スケッチ、写生、2 年目 製品設計、改良を実施し、3 年目に創作とのことであった。



写真8 蘇州工芸美術職業技術学院 会議室



写真9 技術学院 デザイン室実習室

ここも3年制である。当方から、「卒業後は、他の大学等にも行くのか」の質問に8割は就職、2割が新たな研究生として残るとの返答があったのであるが、「当校は3年で完成させる学校ですから」と主任の先生が力強く述べていたのが印象的だった。そして、学生の作品が収められた総カラー60ページから70ページはある分冊本を全6巻揃えて装丁したものを土産として全員10名が頂いた。室を出て、伝統工芸の工房、実習室並びに、産学協同で、企業が入って試作等をしている室を見せていただいた。

また、両学院の先生6名に、夕方、ホテルでの交流会に来ていただき、意見交換を実施した。

5. 上海にて

上海は、経済規模では中国最大の都市である。高層ビルが建ち並ぶ巨大な都市が眼の中に飛び込んで、「ああこれは、アジアの中心、国際都市だ」と思った。上海市庁舎の前、人民公園から上海博物館に向かうが、手入れの行き届いた公園、ごみひとつ落ちていない。綺麗である。蘇州でも上海でも行楽地で公衆便所を何度も使ったが、清潔にしてあり、便器の前には、一步前進、世界のマナーなどとステッカーが貼ってあり、チップは必要なかった。博物館から、新天地というところに行く。欧米やアジアの有名ブティックやショップが集まっているところである。カフェテラスで黒ビールを飲む。行きかう男女も東京と同じ、否、それ以上におしゃれに見えた。この後、上海と言えば、テレビの画面に出てくる黄浦江に沿って南北に広がるエリア外灘、通称バンドを散策した。

最後の晚餐をホテル近くのレストランで取った。円卓を囲み庶民的な店であったが、ここでN氏はデジカメを忘れたのである。一晩経ち、朝方そのことに気がついたのである。朝早い便で帰国するため、レストランはまだ開いていない。遅便で帰国するI氏に一応、問い合わせてもらおうよう頼んだのである。誰もが、もう出てこないと思ったが、デジカメは、お店で保管してありI氏が持ち帰り、N氏の手元に戻ったのである。

中国は確実に豊になっているのであると思った。

6. おわりに

おわりに代えて、参加者の感想を載せます。

・いろいろ仔細のことはわかりませんが、国が大きいこと、職業教育に力をいれていることは十二分に肌で感じることができたと思います。実践研の久しぶりの国際交流再開の端緒になれば幸いですと思います。

・私等は、中国は初めてです。中国は経済大国になったとの認識は有りましたが、あれほどインフラが整備され活気ある国になっているとは思っていませんでした。中国の職業大は設備も立派で我々への対応も丁寧で感心



写真10 上海 上海市庁舎前



写真11 上海



写真12 留園にて

しました。上海博物館では貴重な経験が出来ました。願わくば、こうした企画に若い人たちが参加してくれると良いですね。

・今回の視察は、楽しくかつ勉強になりました。上海、蘇州は、観光で15～6年前に来ましたが、報道、友人等からは聞いていましたが、そのあまりにも大きな変わりようにビックリしました。大都会で洗練された綺麗な街になりました。職業大の施設、規模、人数の大きさもビックリしました。主に、日本企業をビジネス相手としている私にとって、大国の隣国として、これから日本が生き残っていくにはどうすれば良いのかという難問を抱えたような、実感を肌で感じた視察でした。

・中国のPCB工場では、最新のマシンを導入していると聞いておりましたが、職業訓練校でも、同様に、最新マシンにて授業を行っていることに、驚きを隠せませんでした。このままだと、中国は世界の工場というだけでなく、設計から製造まで一貫した大国になると、感じました。

・私の聞いていた中国とかなりの落差がありました。これからの日本との関係はどうなるのでしょうか。日本とか外国とか言っている時代ではなくなるのでしょうか。千葉の田舎の中小企業が蘇州に工場をつくるのも理解できるような気がします。単純な言い方ですが蘇州に156社？の日本企業 約15,000人？雇用が生じているとかいいかえれば、日本国内の雇用はどうなるのでしょうか。政治家に任せるだけで大丈夫でしょうか心配です。

脚注

(1) 石丸進 藤原美樹 「職業大学考—蘇州市職業大学を中心として—」2009 実践教育研究発表会 予稿集 2009.8 および
石丸進 「職業大学考—中国の職業大について—」2010 実践教育研究発表会 予稿集 2010.8

(2) 藍欣、砂田「中国における職業教育の実情と課題」職業能力開発研究 第25巻 2007

(3) 文部科学省 「教育指標の国際比較」平成24(2012)年版 p74 7. 中国(2009年度)のデータ(学校名、生徒数、施設数)を使った。

(4) <http://jp.showchina.org/> 中国概況、教育の発展 期日 2009.06.22

(5) 張 琳「中国高等職業教育に関する考察・位置づけと発展プロセス」飛梅論集：九州大学大学院教育学コース院生論文集 (11) p23-40 2011-03-25

(6) 前掲(2) p22

(7) 前掲(2) p23

(8) 前掲(2) p22

(9) 前掲(5) p37

(10) 前掲(2) p22

(11) 前掲(5) p37

(12) 職業大と職業技術学院について、どう分類されているのかなど、悩んだが、前掲(2)によれば次のように述べている。「大学(大学・学院)には、学部レベル(4～5年)の本科と短期(2～3年)の専科があり、専科のみの学校を専科学校と呼ぶ。また近年専科レベルの職業教育を行う職業技術学院(従来の短期職業大学を含む)が設置されるようになった。」また、前掲(5)によれば、「1998年から、学校名規範化が実施されたため、多くの職業大学は改組・合併されて職業技術学院に変更された。」とある。

(13) 私たちが眼にしたものを、ネットで調べてみた。
<http://snd-jp.com/area/education.html>

2002年7月、蘇州市政府は経済及び社会の発展に寄与する職業教育開発を目指し上方山、石湖景勝地内に国際教育圏の設立を決定。これにより、蘇州市に散在してきた職業専門学校及び一部大学の蘇州高新区キャンパスを一つの地域に集中させ、教育資源の統合により、企業にハイスキルを持つ人材を提供できる基地とした。現在、教育圏には大学、学院、専門学校など14校で、在校生は10万人に達する。

また、同HPには、蘇州高新区には、1600社以上の外資系企業と7000社の民営企業をもっているとの記述あり。



写真13

蘇州 留園